

平成25年度 輪之内町立仁木小学校 学校評価書

学校の教育目標	ひろい心もち 豊かに表現できる子
経営の重点	1. 子どもの夢を育む教育の推進 2. 「まごころ」いっぱいの学校（「ありがとう」のあふれる学校） 3. 確かな学力の定着を図る指導の充実 4. 温かさと厳しさをもち、子どもに寄り添う共感的生徒指導と教育相談の充実 5. 家庭や地域と連携し、信頼され愛し誇れる学校づくり 6. 教育のプロとしての自覚を高め、人間性を磨き、指導力を高める自己啓発

※評価欄の記号	評価基準 A：実践し、効果をあげることができた。 B：実践し、一応の効果をあげることができた。 C：実践し、僅かだが効果をあげることができた。 D：実践したが、効果をあげることができなかった
---------	---

町の重点	評価の観点	教員評価ポイント	保護者アンケートポイント	評価	2学期の成果	3学期以降の課題と改善策	
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1 ◎ <特色ある学校> 保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	73	町1 69.2	B	・生活科で保育園との交流ができた		
	2 <開かれた学校> 学校の教育活動を積極的に公開し、自己評価や学校関係者評価を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	79	学① 76.7 町1 69.2	B	B	・ホームページにて、学校での生活を保護者に公開できた。 ・フリー参観が位置づけてあり、参観者も結構多かった。 ・作品展やノート点、いなほ祭り等とタイアップして、積極的に授業参観(コリ参観)を位置づけた。 ・様々な事態を想定して命を守る訓練に取り組めた。児童が避難に身についてきた。 ・毎月命を守る訓練を実施していることや様々な状況を考え取り組んでいる。命を守る訓練が定期的に行われ、様々な避難の仕方を指導することができた。	
	3 <危機管理> 児童生徒の命を守ることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を整え、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	97	学② 77.5 町6 71.3	A		・町研に向けて、授業作りや準備など色々学ぶことができた。 ・町研に向けて、授業作りや準備など色々学ぶことができた。 ・授業作りや準備などを行うことができた。町研を通して、年度始めから研究主題に沿って、継続的、計画的に指導を進めた。町研に向けて、それぞれ中野たみ子先生のケース検討会など、積極的に参加し、子ども理解に努めている。 また、岐阜県総合教育センターで、新知識を学んだ。	・子ども主体の授業が構成できるように、探究的な活動がどの教科にも取り入れることができるようにする。 ・3学期もケース検討会議があるので、是非、参加して、陽太さん、将太さん光さんの成長に役立てたい。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	4 ◎ <校内研修> 校内の主題研究を計画的に推進するとともに、教師としての専門性や確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	91		A			
	5 <個人研修> 一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教師としての資質を高める研修に主体的に取り組む。	79		B	A	・情報主任の先生から、様々な情報を教えていただいたので、児童の実態に合わせて選んで、指導することができた。デジタル教科書を使い、毎時間授業を行った。 ・学習の内容が分かるように、動画を多く使った。	・デジタル教科書は、3学期も同様に使っていく。
	6 <情報研修> 分かる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的な研修を行う。	88		A			
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる	7 ◎ <基礎基本の定着> 指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	79	学④ 71.5 町1 69.2	B		・一人ひとりの定着度の見届けをしっかりと行い、補充していくことをしっかりと行っていく。	
	8 <個に応じた指導> 指導内容の系統や児童生徒の発達の段階を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制・評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図る。	76		B	B	3人だから、算数、社会、理科、国語などその子にあった教材を行っているし、進度が全部違う。 一人ひとりの学力の定着を見届けができるように努めた。今後も見届け、指導をしていきたい。	定着の低い単元を取り上げて、個別に呼び、指導をする時間を確保する。 個に応じた学習課題を作り、やりきらせる。 算数で力量差があるので、終末などの練習問題を工夫するなどして、分からない児童をそのままだけにしないように展開を工夫する。
	9 <学習集団づくり> 学習過程・学習形態を工夫し、「聞く・話す・書く」の基本的な学習姿勢や学習規律、学習集団の質を高める指導を充実する。	79		B		・話したり聞いたりすることを増やし指導をした。話せることがふえた。 ・動画を見せることで、話せるようになった。 ・朝の会・帰りの会において、スピーチやふり返りの記述。係からの連絡を位置づけ、欠かすことなく継続してきた。	
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	10 ◎ <全教育活動を通じた道徳教育> 道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画を工夫改善する。	73		B	週一回水曜日に道徳を必ず行っている。 道徳をすることで、心を優しくしている。 道徳こそ、学級経営に大切である。 道徳を行い、学級経営でバランスをとっている。正当性を主張できる。		
	11 <道徳の時間> 道徳の時間のねらいを明確にし、児童生徒が道徳的価値に気付いたり、自己を見つめたりすることができる指導過程や指導方法を工夫する。	79		B	B		・道徳は毎週行い、発問を繰り返し繰り返し行うことで、考える力をつけた。
	12 <心を育む体験活動> あいさつ、美化、ボランティアへの取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	76	学⑦ 58.9 学⑧ 69.8	B		・あいさつは教師が大声で率先垂範している。会った子に大きな声で挨拶することで、学校生活を気持ちよく迎えるようにしている。帰るときも、気持ちよく帰るように「さようなら」と元気よく率先垂範している。ありがとうの言葉を使い、思いやりを育てている。学級における	・形だけになってしまっている部分があるので、意味にもこだわって取り組むようにしていきたい。 ・挨拶は大きな声で、元気よくモットーにがんばる。 ・あいさつについては、引き続き、児童が主体
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	13 ◎ <指導計画・指導体制> 児童の発達段階に応じた指導計画を作成し、一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう指導を充実する。(小)	76	町2 70.7	B		男女で会話活動ができるようになるために、学習形態や、活動内容の工夫が必要。	
	14 <指導過程> 学級担任が主体となり、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	80		A	授業中は、積極的に英語を使うように心がけている。	ALTに任せきりになっているところがあるので、学級担任が中心になって取り組めるようにしていきたい。	
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	15 <全体計画・指導計画> 小・中学校の連携を通して、学習のねらいや内容、各教科等との関連を明確にし、課題意識が連続展開するよう全体計画や指導計画を工夫改善する。	80		A	・全体計画の作成し、この時間にどんな力をつけたかを明確にして授業に取り組むことができています。	連携となると今後の取り組み等を考えていく必要がある。	
	16 ◎ <探究的な学習> 身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に働かせるよう体験活動と言語活動を意図的・計画的に設定し、探究活動を充実する。	82		A	A	・ゲストティーチャーに来ていただくなど、計画的に進めることができた。 ・アイガモ農法によるお米作りを中心に、農業について探究活動に取り組むことができた。	人との関わりから生まれた子供達一人一人の思いを「ふるさと仁木の町じまん」という価値に近づけていけるように探究活動を工夫する。

町の重点	評価の観点	教員評価 ポイント	保護者アン ケート ポイント	評価	2学期の成果	3学期以降の課題と改善策
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる	17 ◎ <自発的・自治的な活動と指導計画>児童生徒の自発的、自治的な活動を展開し、自己の生き方について考え、自分のよさや可能性を發揮してよりよい生活や人間関係を築こうとすることができるよう指導計画を工夫改善する。	73		B	B ・引き続き、係活動において創造的な活動を求めてきた。 ・児童会活動(ハートホットプロジェクト等)とタイアップした活動を行ったり、集会活動の企画運営を自主的に行う姿が増えてきた。	
	18 <指導と評価>集団や社会の一員としての自覚を深めるため、児童・生徒会活動や学級活動等において、個々の活動状況を見届け、一人一人のよさや可能性を認め励ます。	76		B		
【生徒指導】 共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる	19 ◎ <生徒指導(教育相談)体制>いじめ問題や不登校・暴力といった生徒指導上の諸問題に対して、日常的な教育相談やアンケートなどを通して未然防止や早期発見に努め、組織的に対応する。	91	学⑤ 67.2 町3 64	A	A ・仲間アンケートを活用し、児童の思いを知って指導することができる。仲間アンケートを活用し、児童の思いを知って指導することができる。 ・教育相談週間を実施し、一人一人の声を聞いている。 ・一人一人が困っている問題や実際に生じた問題等を自分自身の問題として考え、話し合ったり、行動したりして、学級全体で原因や解決方法等を導き出すようにしてきた。 ・命の大切は、道徳の授業、理科の授業「人の誕生」、社会「長く続いた戦争」で、指導をした。命の大切さは、ものすごく分かっているようで、すぐに「かわいいぞう」と言います。 ・命を守る訓練などで自分の命の大切さを指導している。	
	20 <学年・学級経営>一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感・達成感を味わうことができるよう児童生徒の関わり合いを大切に学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	76		B		
	21 <生命尊重・倫理観・規範意識>自他の命の大切さや基本的な倫理観・規範意識を体得できるよう指導を徹底する。	82		A		
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	22 ◎ <勤労観・職業観>学級活動における進路指導と関連させた体験活動(職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など)を通して、働くことや奉仕することの尊さや喜びを味わえるよう指導・援助を充実する。	70		B	B ・働くことの大切さについては指導しているが、喜びや達成感まで価値づけられていない。	
	23 <ガイダンス>一人一人の進路希望や能力・適性を生かすことができるよう、個に応じた適切なガイダンスを行い、進路学習や進路相談を充実する。(中)					
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	24 ◎ <保健・安全・食>児童生徒の生活習慣や心身の健康状態を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「保健・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	76		B	B ・給食は残さずに全部食べている。好き嫌いがなく、おいしく食べている。 ・保健体育で「たばこの害と健康」について指導するとともに、外部講師の方にお話をさせていただくことができた。 ・なわとびカードをもとに、仲間と競いながら、意欲的になわとびに取り組んでいる。 ・持久走大会も、教育課程の関係からなくなることが懸念されているが、目標を持ってがんばる児童の姿に感心した。外遊びを推奨している。	元氣よく、病欠欠席ゼロを目指す。
	25 <運動推進>児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	79	学⑩ 65	B		体育の時間の運動量が確保できなかった。これからはより動けるような授業展開にする。
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	26 <校内支援体制>特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援体制をつくり、保育園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童理解・生徒理解を図る。	79		B	B ・特別支援コーディネーターから、毎週発達障害の児童理解についての資料が配付され、打ち合わせで研修をした。 ・一人一人、学習が違うので、その子のスピードに合わせて学習をすすめることができた。 ・個別の支援計画や個別の指導計画をもとに、授業を進めることができた。	
	27 ◎ <個別の支援>保護者や関係機関との連携のもと、一人一人の教育的ニーズに応じ、教育支援計画や個別の指導計画を作成し、指導内容や指導方法、教材教具を工夫改善する。	76		B		・個別指導計画に沿って、進めているので、変更点を書き加えていく。
	28 <交流及び共同学習>特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的に行い、社会性や豊かな人間性を育てることができるよう指導を充実する。	70		B		・交流学級を実施しているが、効果を感じない。やるからには、時間通り来ることや授業中の態度をしっかりと指導してから実施するべき。 ・交流学級に行く機会が今後、多くなるので、 早く行って聞かせるように支援していきたい。
【人権教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	29 <人間関係の醸成>互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	76	学⑧ 69.8	B	A ・たんぼぼの子は大変温かく、困ったら声が掛けることができた。 ・いじめや差別がない。みんな仲間です。 ・いじめや差別を絶対に許さないことを学校全体で取り組むことができています。	・温かい気持ちで過ごせるように、環境を整備する。掲示物、声かけなどである。
	30 ◎ <いじめ・差別の解消>いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	85	学⑤ 67.2 町3 64	A		・いじめはあってはいけい。アンテナを高くして、早く気づくようにする。
【情報教育・図書館教育】 ・児童生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる ・日常的に読書に親しみ、教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる	31 ◎ <情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	76	町2 70.7	B	B ・もらったはがきでの年賀状作りなど、パソコンを活用して実用的な取り組みをすることができた。 ・情報モラルの段階表に従って、インターネット、ワープロまですすめた。 ・ ローマ字学習で、キーボードの配列を覚え ・情報モラルで、2学期もたびたび、Yさんが掲示板などを出すので、注意しながら気をつけています。 ・情報主任を中心に計画的に情報モラルの授業を行うように呼びかけ、実施している。 ・5年生の理科の授業には、単元ごとに輪之内町図書館から本を10冊借りてきて、5年生教室に置いて、学習を進めることができた。たんぼぼの子もその本で学習できた。	・情報活用の段階表に沿って行う。 ・情報モラルを多くする。
	32 <情報モラル>情報モラルについて、意図的・計画的な指導を行う。	79	町2 70.7	B		情報モラルを多くして、将来困らないように知っていてよいことは指導する。
	33 <図書館教育>学校図書館を利用しやすく整備し、図書計画的活用や読書活動の推進に取り組む。	76	学⑨ 57.8	B		図書館をあまり利用できていない。今後は利用していく。本の状態や図書館の環境をもう少し整備をすすめる。
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる	34 ◎ <ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	85	町4 76.9 町5 73.3	A	A ・ゲストティーチャーから学び、グラウンドワークに自主的に参加するなど地域への活動に広がった。 ・町の図書館見学などを通して地域のことを知ることができた。	
	35 <国際交流>中国(小)やカナダ(中)との交流活動を通して異文化への理解を深める。					

58
69
83
78
75
69
75
67
72
50
64
72
67
58
67
69

67
72
83
67
69
67
69
64
78
64
61
67
72
67
67
61
67